

現代の真理シリーズ No.4

PRESENT TRUTH BOOKLET SERIES NO.4

144,000とは どんな人々か？



現代の真理シリーズ No. 4

144,000 とはどんな人々か？

金城 重博

目次

Contents

- 144,000 とはどんな人たちか？ …………… 3
- 聖書から見てみよう …………… 8
- 現代の預言者エレン・ホワイトは
どのように説明しているだろうか？ …… 11
- 144,000 の神の印は、何を意味するか？ … 14
- 144,000 はいつ出現するのであろうか？ … 18
- 144,000 の曲解について考えてみたい。 … 23
- 144,000 は、死んだ義人も含むか？ …… 37
- 144,000 は七つの災害の一つでも、あるいは
少なくとも第七の災害は経験するか？ … 39
- 144,000 人はきっちり字義通りの人数か？ 42
- 144,000 の役割 …………… 50

「我々が彼を見、彼について考えるとき、彼は我々の心のうちで形作られる栄光の望みとなられるであろう。14万4千の中に入るために神が我々に与えて下さった力を尽くして努めよう。」 RH1905/3/9
スタディバイブル(新)578

「神の選ばれたこれらの人々が誰であるかは、近いうちに疑いもなく分かるであろう。」 MS26,1901 スタディバイブル(新)588

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る…。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」

大争闘下 397

144,000 とはどんな人たちか？

どんな人の教えも二つのことでテストされなければならない。

1. それは聖書、聖書のみによって確立されなければならない。もし聖句が証の書の引用によって支えられなくてもそれ自体で立つ事ができなければ、その解釈は疑わしい。
2. 「**真理は、公明正大、明瞭明白であって、それ自体を大胆に擁護する。**」初代文集
189

啓示されている明瞭明白な真理から受け入れ、不明瞭な事は漸進的に啓示されるまで待とう。推測はひかえよう。

聖書、証の書の解釈における注意点：

1. み言葉の歪曲

「聖書についてあいまいな、変わった解釈をしたり、またキリスト教界において、宗教的信仰に関して多くの矛盾した説があったりすることは、人心を混乱させて真理を見分けられないようにするための大敵サタンのしわざである。キリスト教会内にある不和、分裂は、自分の気に入った理論を裏づけるために聖書を歪曲するという一般的な風習のせいであることが非常に多い。神のみこころを知ろうとして謙遜に注意深く聖書を研究しないで、何か変わった独創的なものを発見しようとする者が多い。」 大争闘下 263

2. 前後関係を無視

「誤った教理や非キリスト教的習慣を支持するために、聖書の前後関係を考えずに一節の半分だけを引き離して引用する人々がいるが、その残りの半分を見れば、全く反対の意味になることもある。」同 264

3. 曲解

「彼らは、自分の肉の欲をほしいままにするために、へびのような狡猾さで、曲解された無関係なくつかの聖句のかげに、自分の立場を守るのである。このようにして、神のみ言葉を故意に曲解する者が多い。」同 264

4. 型や象徴について憶測

「他方、聖書の型や象徴について想像をた

くましくする者もある。そのような人々は、聖書が聖書自らの解釈をしているその証言も無視して、思いのままに解釈を下し、自分たちの臆測を聖書の教えであるかのように説くのである。」同 264

「聖書の言葉は、象徴や比喩が用いられていないかぎり、その明瞭な意味に従って解釈さるべきである。」同 365

5. 「救い主の一つの言葉をもって、 他の言葉を無意味にしてはならない。」

144,000 のことについて主の僕は次のように言っている：

「み言葉の中で教えられていないこと、彼の民が推測しなければならないことを提示するのは、神のご計画ではない。霊的に彼らの助けにならないような問題、14万4千を構成しているのは誰であろうかというような問題について、彼らが論争する

ようになるのは、神のみ心ではない。神の選ばれたこれらの人々が誰であるかは、近いうちに疑いもなく分かるであろう。」MS26,1901 スタディバイブル(新)588

この引用文も曲解しないように気をつけよう。エレン・ホワイトは当時の時点で論争すべきではないと言われたのは、まだ時期ではないと感じられたからであろう。ダニエル書の「常供」についてもそうであった。しかし、上の引用文は近いうちに疑いもなく分かる時が来るとも言われていることを見逃がしてはならない。我々は示されている限り、理性を尽くして144,000の出現の理由、目的、どのように出現するのかを理解する必要がある。

エレン・ホワイトは次のように言っている：
「14万4千の中に入るために神が我々に与えて下さった力を尽くして努めよう」RH1905/3/9 スタディバイブル(新)578

まず、聖書から見てみよう。

黙示録 6 章はキリストの再臨で終わっている。そして次のような質問で閉じている：

「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか。」 黙 6:16,17

キリストの再臨の時に誰がその前に立つことができようか？その答えが 7 章にある。誰が？神に印された民—144,000 である。「彼らは大きな患難をとおってきた人たち」（黙 7:14）である。

また、黙示録 13 章には次のような質問がある。

「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか。」 黙

13:4

世界を支配し、日曜遵守を強要するローマ法王教と誰が戦うことができようか？全世界がローマの支配下に置かれる時、その支配に屈しない者たち、いやそれと戦う者たちがいる。その答えが黙示録 14 章にある。それは神に印された民、144,000 である。「獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々」（黙 15:2、大争闘下 430）である。つまり、144,000 は、キリスト再臨の時まで生き残る人々であり、日曜休業令という最後のテストを経験する者たちである。日曜休業令から再臨の時まで生き残る人々であるからには、当然「大いなる悩み」七つの災害も通過する。黙示録 7:14-16 に次のように描写されている：

「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。それだから彼ら

は、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。」

ダニエル書 11:40 からは、終わりの時になって起こる事件である。北の王、すなわち、ローマ法王に戦いを挑んできた南の王、すなわち無神論—共産主義が突然崩壊することを描写している。北の王（法王教）はつむじ風のように世界を支配していく。政治、経済、宗教の世界支配、つまり新世界秩序が成った時、神が介入されることが、44 節に「しかし、東と北からの知らせが彼（ローマ法王教）を驚かし…怒」らせると描写されている。

東、すなわち「日の出る方」から「生ける神の印」をもって降りてくる天使の働きは、全地を栄光によって照らす（黙 7:1, 2 ; 18:1 参照）。黙示録 18:1 の大いなる栄光の天使は、エゼキ

エル 43:1, 2 の東の方から来る栄光と同じである。それは近い将来のことである。バビロンが完全に倒れてから後のことである。

では、現代の預言者
エレン・ホワイトはどのように
説明しているだろうか？

大争闘下 430-431 に 144,000 がどういう人々であるかが明瞭明白に描写されている（特徴をつかむために段落を崩す）：

「み座の前の、水晶のように透きとおった海、あの、火のまじったガラスの海—神の栄光でまばゆく輝いているところの、—の上に、『獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が』集まっている。シオ

ンの山の小羊とともに、人々の間から贖われた彼ら、すなわち、144,000 が、『神の立琴を手にして』立つのである。また、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような、『琴をひく人が立琴をひく音』のようなものが聞こえる。

そして、彼らは、み座の前で新しい歌をうたう。この歌は、144,000 以外のものは、だれも学ぶことができない。それは、モーセと小羊の歌、すなわち、救いの歌である。144,000 のほかは、だれもその歌を学ぶことができない。なぜなら、それは彼らの体験—他のどの群れもしたことの無い体験—の歌だからである。『小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。』

彼らは、地上から、生きている者の間から、天に移された者たちで、『神と小羊とにささげられる初穂』とみなされる（黙示録 15:2,3 ; 14:1-5）。

『彼らは大きな患難をとおってきた人たち

であって』、国が始まって以来かつてなかったほどの悩みの時を通過してきた。彼らは、ヤコブの悩みの時の苦しみに耐えた。

彼らは、神の最後の刑罰がくだる中を、仲保者なしで立った。しかし彼らは、『その衣を小羊の血で洗い、それを白くした』ために、救われた。『彼らの口には偽りがなく、彼らは』神の前に、傷のない者であった。』『それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。』

御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。』彼らは、地上が飢餓と疫病で荒廃し、太陽が激しい熱で人々を焼くのを目撃した。そして、彼ら自身も、苦しみ、飢えかわいたのであった。しかし、『彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。御座の

正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるであろう。』（黙示録 7:14-17)。」

144,000 の神の印は、 何を意味するか？

1. 完全な品性

「我々は聖霊の祝福のことを話すかもしれないが、それを受けるために自らを備えない限り、我々の働きは何の益があるだろうか。我々は力を尽くして、キリストにある男女の身の丈に到達するために全力を尽くしているだろうか。我々は彼に満ち満ちているもの、我々の前に置かれた目

標—キリストの品性の完全—を求めているだろうか。主の民がこの目標に到達するとき、彼らはその魂に印されるのである。 聖霊に満たされて、彼らは、キリストにあって完全になり、記録の天使が、『完了した』と宣言する。』 RH,1902/6/10 スタディバイブル(新)426

大争闘下 397 頁を見ると、144,000 は罪のない完全な状態になっている。

2. 大いなる悩みに備える

「わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。 生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備を

おろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、『慰めの時』と『春の雨』（後の雨）とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならぬ慰めを、受けることができなかった。」初代文集 149

※注：後の雨／神の印を受けることは、悩みの時に備えることである。（初代文集 149, 448、大争闘下 385、TM506 参照）。日曜休業令の前に経験することではない。

3. 仲保者なしに神の前に立ち得る

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖な

る神の前で、仲保者なしに立たなければ
ならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。

この働きは、黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている。この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。」大争闘下 140-141

4. 全能者の覆い

「サタンはちょうどこの印する働きのとき

において、このような方法で、神の民の心を反らし、欺き、神から引き離そうとしているのをわたしは見た。ある人々は現代の真理に堅く立っていないのをわたしは見た。彼らは真理にしっかりと立っていなかったので、彼のひざは震え、彼らの足は滑っていた。そして、彼らがこのように震えている間は、全能の神の覆いが彼らにかけられなかったのである。」
初代文集 108,109

では、この 144,000 は
いつ出現するのであろうか？

先に説明したように、黙示録 13 章、14 章には、日曜休業令のテストの時、獣の刻印を受けるか神の印を受けるかが決定することが書かれている。

国指下 193-196 を読んでいただきたい。神の印を受ける者たちの経験が描写されている。要約してみよう：

1. 近い将来、人間の布告に服従するように要求される。（日曜休業令）—193
2. 神の民は深い内的苦悩に入る。今にも絶望するばかり。—193, 195, 196
3. 汚れた衣、すなわち罪の記録が除去される。—196
4. 栄光の衣が着せられ、二度と世俗の腐敗に汚されない。—196
5. 誘惑者の計略から永遠に安全。—196
6. 生ける神の印が押される。 144, 000 が出現する。—196, 197

明瞭明白な引用文を列举する：

「主は私に、恵みの期間が閉じられる前に、

獣の像が形作られるということをはっきり示された。なぜなら、それは神の民のための大いなるテストだからである。それによって彼らの永遠の運命が決定されるであろう。…[黙 13:11-17 を引用]…

これは神の民が印される前に受けなければならないテストである。」

Letter11,1890 スタディバイブル
(新)585,586

「兄弟方よ、この備えの大いなる働きの時にあなたがたは何をしているのだろうか？世と結合している者たちは、世の型を受け、獣の刻印に備えているのである。自己に頼らないで神のみ前で謙遜に、真理に従って魂を清める者は、天の型を受け、彼らの額に神の印を受ける準備をしているのである。法令が發布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、

しみのない者となるであろう。」 5T216

「今や、まもなく生ける者のさばきという大いなる働きが始まろうとしている時に (is about to begin) , 我々の清められな
いまの野心が心を占領し、この危機に備える必要な教育を怠るように導かれて
いいだろうか？ どの場合においても、獣の刻印、あるいはその像を受ける (shall 未来) か、それとも神の印を受ける (shall 未来) という一大決心がなされなければならない (is to be made 未来)。」 6T 130, 1900 年

「裁きの時は最も厳粛な時である。その時に主はご自分の民を毒麦から集められる。同じ家族の者が分かれたる。義人に印が与えられる。…永遠の分離の印。」 TM 234,235

「獣とその像のしるしを拒む者たちに救出のしるしが与えられるであろう」 5T451, 452

「最後の試み（テスト）が世界に臨み、神の戒めに忠実であることを示した者はみな『生ける神の印』を受けたのである。」
大争闘下 385,386

「すべてのケースにおいて、我々は獣の刻印を受けるか生ける神の印を受けるか（未来形）という大いなる決断に迫られる。」
6T130

日曜休業令は神の民の運命を永遠に決定する事件。天における生ける者のさばきにおいて、永遠に運命が決定される。であるなら、日曜休業令と生ける者のさばきは平行する事件であると考えられないか？「生ける者のさばきはいつから始まるか」については別に考える。

次に 144,000 の曲解について
考えてみたい。

**“144,000 の印される働きは
1844 年から始まった。”**

A 論：

1844 年から三天使の使命を受け入れた者は
神の印を受ける 144,000 のメンバーに入る。

① 「わたしは彼女 (ハスティングス夫人)
が印されたこと、また神の声でよみがえ
り、地の上に立って、144,000 と共にい
るのを見た。彼女のために悲しむ必要は
ない。彼女は悩みの時の間休むのである。
ただ我々にとって悲しいのは、彼女が我々

の仲間から去っていったことである。」
2SM263

②「地上には 90 歳を過ぎた人々が生きて
いる。当然の結果として、老齢の彼らに
は弱さが見られる。しかし、彼らは神を信
じ、神は彼らを愛しておられる。神の印
が彼らの上に押されている。彼らは、主
が『主にあって死ぬ死人はさいわいであ
る』と言われた者のうちに数えられるで
あろう。彼らはパウロと共に、『わたしは
戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程
を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、
義の冠がわたしを待っているばかりであ
る。かの日には、公平な審判者である主が、
それを授けて下さるであろう。わたしば
かりではなく、主の出現を心から待ち望
んでいたすべての人にも授けて下さるで
あろう』と言うことができる。戦いをりっ
ぱに戦いぬき、信仰を守りとおした故に、

主が尊ばれる多くの白髪の人々がいる」
Letter207,1899 年

③「次に、わたしは、第三天使を見た。わたしと一緒にいた天使は言った。『彼の任務は、恐るべき任務である。彼は、麦を天の倉に入れるために、麦を毒麦からよりわけて印をおし、たばねる。われわれは、こうしたことに全身全霊をかたむけ、すべての注意を向けなければならない。』」 初代文集 221

安息日は神の印（エゼキエル 20:20）であるから、1844 年以來安息日を受け入れた者たちは 144,000 である。大争闘下 418 参照。

「彼らは、第四条の安息日が生ける神の印であることを知る。」

④ 「印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。」
初代文集 130

※「やがて過ぎ去ってしまう」と言われているからには、印する働きはすでにはじまっていて、まもなく終わる。

⑤ 「第三天使の使命を受け入れて死んだ人たちは 144,000 の一部であり、この人たち以外に 144,000 があるのではなく、彼らはその数を満たすのである。彼らはキリストの再臨の直前に朽ちる命をもってよみがえらされて、キリストの再臨の時朽ちない命に変えられるのである。」
ジェームズ・ホワイト RH1880/9/23 by James White.

⑥「よみがえった安息日遵守者たちが144,000の中に数えられるということになお疑いが残るのなら、1909年にホワイト姉妹が語られた次の言葉を考えてみてください。1909年の世界総会の時にアーヴィン長老はホワイト姉妹を訪ねるのに、速記者を一人同行させた。彼は彼女に、幾つか尋ねたいことがあったのであるが、質問の言葉を正確に残したかったし、解答についても正確な記録が欲しいと考えたのである。いくつかの質問事項の中に、このようなやりとりがあった。『この使命の下に亡くなった人も、144,000に入るのですか?』ホワイト姉妹は答えて言われた。『ええ、そうですとも、信仰を持って亡くなられた方々は144,000の中に入るのです。このことについてはっきり申し上げます。』以上のことは、アーヴィン兄弟が速記者記録から、わたしに写してもよいとおっしゃった質問と答えそのままのものである。」 Questions on

the sealing message by John Norton
Loughborough 17

ある人たちは、上記の引用文から次のように推論する：

1. 第三天使の使命は 1844 年から始まり、安息日の光が与えられた。
2. 安息日は神の印である。
3. 従って 1844 年から 144,000 の神の印を押す働きが始まっている。

A 論への反論：

上記の論法は的確であろうか？

「安息日を守ると告白するすべての者が印されるわけではない。真理を他人に教える者の中にさえも、その額に神の印を受けない多くの者がいる。…

我々の品性に一点でもしみやしわがある間は、誰も神の印を受ける者はない。すべての汚れから魂の宮を清めるために我々の品性の欠点を直すのは我々にまかされている。その時、ペンテコステの日に弟子たちに先の雨が降ったように、後の雨が降るのである。」 5T214

①「わたしは彼女（ハスティングス夫人）が印されたこと、また神のみ声でよみがえり地の上に立って、144,000 と共にいるのを見せられた。彼女のために悲しむ必要はない。彼女は悩みの時の間、休むのである。悲しいのは、彼女が我々の仲間から去っていったことだけである…。」 2SM263

ハスティングス夫人は 144,000 の中に数えられるか？特別な復活をして 144,000 と共にいる (with) のであって、(in) の中にいるのではない。獣の像のテストも経験しない。大いなる悩

みも経験しない。その間休んでいるのである。ならば、(144, 000) 彼らは「国が始まって以来、かつてなかったほどの悩みの時を通ってきた。彼らはヤコブの悩みの時の苦しみに耐えた。彼らは、神の最後の刑罰がくだる中を、仲保者なしで立った。」大争闘下 431

この描写に完全に反するではないか。

② 神の印を受けた 90 歳を過ぎた人々は「『主にあって死ぬ死人はさいわいである』と言われた者のうちに数えられ」、特別な復活にあずかるのであって、「最後のテスト」も経験しないし、「死を経験しないで天へ移される人々 (144, 000)」(初代文集 283)には加わらない。

ではこれらの人々の「神の印」は何であろうか。パウロは信者は「信じた結果、聖霊の証印を受けた」と言っている(エペソ 1:13, 4:30)。先の雨の聖霊の証印は復活して永遠の命にあずかる保証である。それはパウロの時代も同じで

ある。しかし、三天使の使命のもとで印された人々は、再臨前に「特別な復活」にあずかり、悪人たちの運命の宣告を聞き、4倍も輝く星を見、天に十戒の石の板を見、天からイエスの再臨の日時、永遠の契約の宣言、祝福の言葉を聞き、144,000と共に再臨の様子を目撃する特権にあずかるのである。(大争闘下 415-420 参照)

後の雨は、死なないで天に移される 144,000 を印する、特別な印である。後の雨は、日曜休業令に備えるのではなく、七つの災害、キリストの再臨に備えるのである。(初代文集 173, 1T187, TM506 参照)

③ 第三天使の使命の任務は、獣とその像とその刻印に対する警告である。12 頁の引用文にあったように、獣の像のテストが始まってから神の印か獣の印かが決定されるのである。その時が麦と毒麦の分離の時である。第三天使の使命は、1844 年から始まったが最後のテスト(日曜休業令)は、神の民の準備ができていな

いので延ばされてきたのである。麦と毒麦が分けられる時は日曜休業令である。

④ 「印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。」 初代文集 130

「印する時は非常に短い」。日曜休業令がいったん始まると後の雨一大いなる叫びで、山火事のような速さ、稲妻のような速さで終わると預言者は言っている。その「印する時」は延ばされているのである (FLB288)。“will soon be over” の soon はこの場合は「速やかに」という意味である。七つの災害、あるいは日曜休業令による迫害は、速やかに過ぎ去ってしまうであろうという場合、日曜休業令はもう始まっているという意味ではない。

※「印する時」に我々は住んでいる。「今は後の雨の時である」とも表現されている (TM512)。我々はいつでも日曜休業令が立ってもいい時に住んでいる。後の雨による印を受

け、大いなる叫びでみ業を完成し、天のカナンに入ってもいい時期に住んでいる。時が延ばされて、「借りた時」に住んでいるのである。

⑤ ジェームズ・ホワイトの言葉は調べてみたがない。RH 1880/9/23 はない。たといあったとしても、権威として使ってはならない。エレン・ホワイト、預言者の言葉と矛盾する。先駆者の言葉は靈感の言葉ではない。「第三天使の使命を受け入れて死んだ人たちは、144,000の一部であり、この人たち以外に144,000があるのではなく、彼らがその数を満たすのである。」という、第三天使の使命を受け入れて死んだ義人だけが144,000を構成するという意味に取れるのだが……。さらに、死んだ義人たちが復活するときは朽ちない命に復活するのであって、「再臨の直前に朽ちる命をもってよみがえらされて、キリストの再臨の時に朽ちない命に変えられる」というのはおかしい。

⑥ ラフボローの言葉の信憑性を問わなければならぬ。たとえ彼がそう言ったとしても、誤ることはあり得るのである。ホワイト夫人でさえ、幻によって示されるまで「閉ざされた戸」について当初の再臨信徒が持っていた過ちを信じていた。弟子たちもキリストの王国についての誤りを持っていた。1844年10月22日にキリストが再臨されなかった時、恵みの戸は「世界に永久に閉ざされた」と思っていたのである。しかし、後に第一、第二天使の使命を拒んだ者たちは暗黒に閉ざされたが、光を示されなかった世界の人々には至聖所の戸が開かれて、救いの招待がなされていることを知ったのである。

だから、先駆者として誤りを持っていた。漸進的な真理の啓示によって誤りを正していったのである。そのまま先駆者の誤りに執着する必要はない。

また、ホワイト夫人が言った言葉を曲解してそれがうわさとなって広まったこともあること

を知っていなければならない。たとえば、生ける者のさばきについての曲解である。引用しよう：

「去年の冬(1888-1889)、ミネアポリス総会の間、わたしは次のようなうわさを聞いた。『ホワイト夫人は、1844年以來死んだ義人のさばきが続いていたが、今や生ける者に移ったことを示された』と。このうわさは真実ではない。同じようなうわさが、約2年間も広まっていた。スイスのバーゼルからカリフォルニアの牧師にあてて手紙を書いた。要点は次のようなことであった。『死んだ義人のさばきが40年以上も続いてきた。生ける者にどれほど速やかに移るかは、我々は分からない』と。手紙はいろんな人に読まれ、不注意に聞いた者たちが生ける者のさばきに移ったと聞きまちがえて伝え始めた。これがことの始まりである。うわさはミネアポリスから、また手紙の引用から、

同じ影響を及ぼした。これほどはなはだしい根拠のないうわさはない。」 1888, E. G. ホワイト資料 323

1. 啓示された証拠にまず立つことが重要である。
2. 自分の考えを支持する言葉を探すのではない。聖書も証の書も自分の考えを支持する言葉を見つけようと思えばいくらでも不適當な引用ができるものである。

144,000 は、 死んだ義人も含むか？

先に大争鬪下 430-431 の引用文を挙げた。

もう一度まとめてみよう：

1. 獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々である。
2. 初穂と呼ばれる。
※はじめて生きている間に裁きを受け、罪の除去をされ、罪なき完全にされた群れである。（国指下 196）
3. 他のどの群れもしたことのない体験の歌を歌う。
4. 地上から、生きている者の間から、天に移された者たちである。
「死を経験しないで天へ移される人々」
初代文集 283

5. 「大きな患難をとおってきた人たちであって」、「国が始まって以来かつてなかったほどの悩みの時」を通過してきた。ヤコブの悩みを通過する。
6. 最後の刑罰がくだる中を、仲保者なしで立つ。
7. 飢餓と疫病で荒廃し、太陽が激しい熱で人々を焼くのを目撃する。
8. 彼らは、地上から、生きているものの間から、天に移された者たち。

「モーセは、キリストの再臨の時に死から甦えらされる人々を代表してそこに立ち会った。死を経験しないで天に移されたエリヤは、キリストの再臨の時に不死の体になって、死を経験しないで天へ移される人々を代表していた。」 初代文集

283

144,000 は七つの災害の
一つでも、あるいは少なくとも
第七の災害は経験するか？

誤：復活して最後の第7の災害だけは経験する。

正：死んだ義人たちは一つも災害を目撃しない。

大争闘下 414, 415 から引用してみよう：

「神が、ご自分の民を救うためにその力をあらわされるのは、真夜中である。…神のみ声が、多くの水の音のように聞こえてきて、『事はすでに成った』と告げるのである（黙示録 16:17）。…

大地震が起こる。『それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなも

ので、それほどに激しい地震であった』
…『一タラントの重さほど』の大きな雹が、
破壊の働きをしている（同 16:18,21）。
おごり高ぶっていた地上の諸都市が低く
される。…神の民が解放される。

墓が開かれる。『地のちりの中に眠ってい
る者のうち、多くの者は目をさますでしよ
う。そのうち永遠の生命にいたる者もあ
り、また恥と、限りなき恥辱をうける者
もあるでしょう』（ダニエル 12:2）。第三
天使の使命を信じて死んだ者はみな、栄
化されて墓から現われ、神がご自分の律
法を守った者たちと結ばれる平和の契約
を聞くのである。…』

1. 彼らは、「地上から生きている者の間から、天に移された者たち」でエノクとエリヤの昇天は、144,000のタイプである。モーセは死んで主を迎える人々のタイプ。初代文集 283

2. 「彼らは大きな患難を通過する。」 黙 7:14, ダニエル 12:1
3. 「彼らは、ヤコブの悩みのときの苦しみに耐えた。」 初代文集 97, 大争闘下 388
4. 「彼らは、神の最後の刑罰がくだる中を仲保者なしで立った。」 刑罰—英語では複数。七つの災害のこと。
5. 「彼らは、地上が飢餓と疫病で荒廃し、太陽が激しい熱で人々を焼くのを目撃した」(第1の災害、第3の災害、第4の災害)
6. 「彼ら自身も、苦しみ、飢えかわいたのであった」
7. 「獣とその像とその名の数字とに打ち勝った人々」

※第七の災害を経験すると主張する理由は何であろうか。1844年以來死んだ義人も、大いなる悩み—七つの災害—を通過する 144,000 に入れたいのであろう。

144,000 人は きっちり字義通りの人数か？

ある人たちは、初代文集 452 の引用文を用いて字義通りの 144,000 とする。

「わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持ったひとりの天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数が数えられて封印された。すると、それまで十誠の納められている箱の前で奉仕しておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、『事はすでに成った』と言われた。」

もし 144,000 を字義通りの人数であるとするなら、黙示録 7 章の各部族からの 1 万 2 千人も字義通りとしなければならないのではないだろうか？我々は真のイスラエルが字義通りのイスラエル民族であるとは、新約聖書で教えていないことを知っている。真のイスラエルとは、アブラハムの信仰を持ち、新しい契約にあずかる人々である。

次の引用文を見ると 144,000 は字義通りの数のように見える。初代文集 63, 64：

「やがてわれわれは（付録参照）、多くの水の音のような神の声を聞いた。その声が、イエスの再臨の日と時とをわれわれに知らせた。144,000(in number、数の上で、全部で)の生きている聖徒たちは、その声を知って理解したが、悪人たちは、それを雷鳴と地震だと思った。」

ある人たちは、これは特別の復活の後のことなので生きて主を迎える人々と特別な復活にあずかる者たち合わせて 144,000 とする。

初代文集の初期の頃の幻は詳細を説明していない。来るべき事件を簡単なわずかな言葉で描写しているのである。聖書にもそういうことがある。たとえば、ヨハネ 5:28, 29 を見てみよう。

「このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう。」

この聖句だけを見ると、義人たちの復活も悪人の復活も同じ時に起こるように見える。しかし、黙示録 20 章を研究すると義人と悪人の

復活には1千年の隔たりがあることが分かる。初代文集のこの文だけを見ると、特別な復活にあずかった義人たちも144,000に含まれるように見えるが、大争闘の詳細な描写を見ると144,000は日曜休業令のテストと大いなる悩みとを通過し、死を見ないで生きて主を迎える聖徒たちであることが分かる。特別な復活は七つの災害が終わってからであることが明瞭である。

144,000 (in number、数の上で、全部で) と表現しているが、必ずしも字義通りのきっちり144,000の数とは限らないのではないかと思える。なぜかという、先にも説明したように、144,000を字義通りにとると、12,000のイスラエルも字義通りとしなければならない。戦闘機にも歩兵隊「バタリオン B256」とか「Battalion 1, 445」と呼ばれるようなものであろうとある人は言っている。144,000は $12 \times 12 \times 1000$ で天国の数字ではないだろうか。原語では、数字で144と書かれその後、000は言

葉で書かれているとか。144 (12 × 12) 神のみ国の完全数であろう。1,000 は 10 キュビットの 10 × 10 × 10 の立方体である至聖所であろう。つまり、彼らは最後の時代に至聖所で産出される完全に出来上がった共同体と言えよう。彼らはイエスの「多種多様な」面の品性を表すのであろう (エペソ 3:10)。144,000 は数字よりも品性の啓示を完全にする人々である。黙示録は啓示の書である。イエス・キリストの啓示をこれらの人々がするのである。

また、ある人たちは、字義通りの 144,000 が先にセブンスデー・アドベンチストから印されて、その人たちが大いなる叫びをして大勢の人々が収穫されると解する。私はそうは思わない。その理由は、

①次の文章による：

「わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持っ

たひとりの天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて封印された。すると、それまで十誡の納められている箱の前で奉仕をしておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、「事はすでに成った」と言われた。」初代文集 452

この文は、日曜休業令から印する働きが始まって恩恵期間が終了するまで、144,000 を印する働きが続くことを示している。

② 黙示録 7 章の文脈から見ても、144,000 は象徴的と思える。「印を押された者の数を聞いた」ら 144,000 と答え (4 節)、見たら (9 節)「数えきれないほどの大ぜいの群集」であった。13 節に「この白い衣を身にまとっている人々はだれか。またどこからきたのか。」と質問されて、14 節にその答えがある。「彼らは大きな患難を

とおってきた人たちである」と。これは疑いもなく、恩恵期間の終了後の大いなる悩みの時のことである。だから、144,000と「数えきれないほどの大ぜいの群集」は二つのグループではなく、同じグループのことである。

③ 黙示録 13 章の獣の数字、また人間をさすものは 666 と言われている。これが象徴的であるとすると、黙示録 14 章の 144,000 も象徴的なものと考えられる。

144,000 がセブンスデー・アドベンチストから出て、それから別の大いなる群集が加わるのではない。日曜休業令のテストを受けて神の印を受ける者は全部 144,000 に入るのである。

そしていつの時代もすべて信じる者は誰でも（欽定訳）救いに入れるように、最後の時代にも誰でも選ぶ者は 144,000 の特別なグループに入れるのである。神が独断的に 144,000 の数

が満ちたから「しめきり」と宣言なさるはずがない。

彼らは「キリストの品性が完全に再現される」最後の熟した者たちである（実物教訓 47, TM506）。だから初穂とみなされるのである。

「わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。」初代文集 149

「クリスチャンの生涯は、たえず前進することにある。イエスは、彼の民を精練し、清める者としての役についておられるのであって、彼のみ姿が、彼らの中に完全に反映される時、彼らは、完全で、清くなり、天に移される準備ができるのである。」 1T340

144,000 の役割

キリストとサタンの大争闘は、神のご品性、律法に関することである。完全に神の律法を守り、品性において罪のない完全が可能であることを証明しなければならない大問題を神は負っておられる。キリストは人間としてそれを証明された。しかし、終わりの時に、6千年の遺産を受けて弱り果てた人間性を通して神は、全世界から 144,000 を出現させて、「律法を守ることは不可能」というサタンの主張を永遠に封じるとするのが神の計画である。

「したがって、天の住民と、すべての世界の前に、神の統治は正しく、神の律法は完全であることを示す(デモンストレーション)必要があった。」あけぼの上 14(あけぼの上 61、希望下 282 参照)

「全天は、神の律法（品性）は聖にして、正しく、良いものであることを擁護するのを聞こうと待っている。この働きをする者はどこにいるだろうか。神は、ご自分の民が神のご計画と律法にさらに深い洞察を得るように召しておられる。」
RH,1901,4/16

そのために、我々は存在させられたのである。

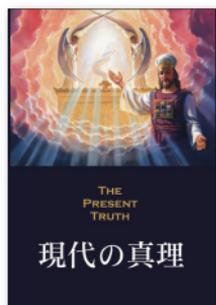
「我々が存在するようになったのは、神が我々を必要とされたからである。」 ST,4-22,1903

「万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。」 コロサイ 1:16

「いっさいのものは…御子のために造られた」のであるなら、我々がこの最後の時代に存在するようになったのは、神の計り知れない摂理なのである！



もっと詳しく知りたい方のために...



“現代の真理”

A5版 168頁
800円

この本を正しく研究するなら、再臨信徒の困惑を整理し、魂の飢えを満たす。終末事件の研究から、今がその時であることを知る。さまざまな教理の風に吹きまわされないために、正しく理解する必要がある。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com